

コアシンポジウム 2

「消化管腫瘍の新展開 【治療効果の診断と治療法選択】」

司会 掛地 吉弘（神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野）
佐竹 悠良（高知大学医学部腫瘍内科学講座）

消化管腫瘍の治療は、外科的切除に加えて、化学・放射線・免疫療法などの選択肢があり、集学的治療の戦略も工夫され、治療成績も向上している。一方で治療効果の診断には課題と限界があり、治療を受けた腫瘍の *viability* を正確に診断して次の治療に活かす工夫が求められる。画像診断や組織診断に加えてリキッドバイオプシー、AI などの利活用も研究が進んでいる。治療効果の診断と治療法選択の最前線を紹介して頂きたい。